

〔特 集〕

## わが国の父親と親役割

### まえがき

編集委員

中 川 英 一

親とは子どもを守り育てるべきものというものは言うまでもない。親は子どもの心身の健康を保証し、また子どもの育ちを導く機能を果さなければならない存在である。心身の健康を守るためには最小限必要な衣食住の提供、家族内のよい人間関係の保持が必要である。このようなことが保証される中で、子どもには安全感、安心感が与えられる。また子どもの生来的に持つ向上欲求を満すべく、親は子どもにとって意義深い道標になることが必要である。そして常に子どもを思い遣り、子どもに目を向けてやるようにする。このような中で子どもは親に対する信頼感を持ち、また家族の中に自分の居場所を持つことができるのである。

親としてのはたらきは、父親と母親の協力と分担によって果されるべきものである。父親は男親としてその男性性を背景とした父性による親機能を、また母親は女親として女性性を背景とした母性による親機能を果たすことが理想である。そして父親、母親の親バランスがほどよくとれている中で、男の子は男性として、女の子は女性としての特質をよりしっかりと育てていくことができると思われる。

この親バランスはわが国において戦後の経済社会の発展過程で崩壊していった。大きな流れとしては

家庭を顧みず職場に献身する企業戦士として、父親の姿は子どもの目から薄れていった。また経済の発展に伴う社会変化として、核家族化や地縁の疎遠化が進み、父子関係の希薄化と相俟って母子関係の肥大化、密着化を招いている。またこのような状況下で母親は父親役割をも担わざるを得なくなった。両方の役割を担うことになった母親との関係の中で、子どもには自分自身の性のアイデンティティを育て損ねてしまうことが考えられる。現に男性は女性化し、女性が男性化している。自分自身の性へのアイデンティティを育て損ねることにより、多かれ少なかれ心理的な歪が生じるであろう。昨今、子どもが起こしている問題の背景に、崩壊した親バランスの影響が多く語られるようになった。

今起こっている親バランスの崩れは、希薄な父子関係と肥大化した母子関係である。本号では読者とともに子どもの目から薄れていった父親に対する関心をよび戻すと同時に、家族の中で姿の薄れた父親に問題の所在を求め、家族の持つ病理構造を多少なりとも把握することができたらと願い「わが国の父親と親役割」と題した特集を組んだ。

御多忙の中、御執筆を御快諾下さった井原先生、庄司先生、亀口先生に深く感謝の念を表したい。